4-B-5

高学年児童による英語絵本の読み聞かせ活動の効果の検証

脇本聡美[1)]
山下敦子[1)] 牛頭哲宏[1)] 高松邦彦[1)] 中田康夫[2)]

2020 年度より初等教育において英語教育の早期化・教科化が決定している。2017 年告示の学習指導要領には、「外国語活動」、「外国語」の目標として、言語活動を通してコミュニケーションを図る能力・資質の育成を目指すことが示されている。言語活動を通した学びを重視することにより、暗記や反復練習が中心になりがちな英語授業の改善が期待されている。その実現に向けては、母語である国語科教育との連携という観点からも英語教育を捉えるパラダイムシフトが求められる。

そこで、本研究では、高学年児童が低学年児童に英語絵本を読み聞かせる活動を通して、高学年児童が英文を読むことの不安感や苦手意識を減少させ得るのか、英語学習に対する期待や自信の高揚につながるのかどうかを検証する。英語絵本の読み聞かせ活動において、児童は英語の持つことばの響きの面白さや美しさを感じ、作品が発するメッセージを理解し、表現するという言語活動を行う。実践は、神戸市内の小学校にて行い、活動前後の児童への質問紙調査、児童と担任教諭へのインタビューを検証データとする。

この研究において得られた知見は、今後 KIT の寺子屋にて、こども教育学科の学生が、児童を対象にした英語活動を実施する等の取組みに活かされることが見込まれる。さらに、そのような活動を通じ、学生が初等英語教育への理解を深めることも期待される。

1） 教育学部こども教育学科　2）保健科学部看護学科